おわびと訂正　本紙231号4面で誤りがありました。以下の通り訂正致します。高橋歩美→高橋歩実　関係者の方々をはじめ、皆さまに深くおわび申し上げます。

変わり続ける街の未来に迫る！

豊島区長 高野之夫

経済学部卒！

豊島区を愛し 豊島区に愛された大先輩

近年、池袋が大きく変わっていることをご存じだろうか。「国際アート・カルチャー都市」と銘打ち、変化を恐れない姿勢で街の変革が続いている。その立役者こそ立大OBの高野之夫区長だ。生まれも育ちも青春も豊島区。戦禍からの復興も経験した。そんな区長が、区への止まらぬ愛を爆発させた。

TOSHIMA International City of Arts & Culture 国際アート・カルチャー都市としま

高野区長の人生

1937年12月25日誕生

政治家としての歩み

現在

豊島区議員（2期継続）

東京都議員（3期継続）

豊島区長（現6期目）

←清潔で活性都市？

←SDGsに尽力！

学生時代

←ヤミ市騒乱！

池袋第五小学校（現・池袋小学校）

←犬のベル教室乱入！

立教中学校

立教高等学校

立教大学

←長嶋さん在籍！

チビっ子の頃の区長

池袋と共に成長

「まさか、池袋がこんなにも発展するとは思っていなかったよ」。懐かしそうに目を細めるのは高野豊島区長だ。人生の大半を池袋で過ごし、街の変化を体感してきた。

終戦後、小学校低学年の時に疎開先から戻った。「空襲で一面焼け野原だった」。駅の周りに広がるヤミ市で必需品を購入。あらゆる物が不足している厳しい時代を乗り越えた。「ヤミ市を怖がる人もいるけど、経済成長を支えてくれた。もしなかったら、池袋は発展しなかったかもしれないね」。

中学校に入学してからは、10年の学生生活を立教で過ごした。当時の六大学野球は、付属校が総出で応援しに行くほど注目されていた。「非常にいい経験をさせてもらいました」と振り返る。同時に勉学にも励み、経済学部経済学科へ進学を決めた。

現在の池袋は、多くの人々が訪れる活気ある街だ。しかし、以前は治安の悪さが目立ち、怖いイメージが先行していた。文字通り、池袋の成長と共に歩んできた高野区長。故郷であるがゆえ、暗い池袋のイメージを払拭したいと願う気持ちは人一倍強い。「立大と一体になり、この街をより良くすることが区長としての到達点だと思います」。

立大×池袋

困難乗り越える

「思い切った政策に取り組めたのは、ピンチをチャンスだと捉える発想の転換がきっかけです」。区長就任から約20年。豊島区改革の裏には絶えずこの姿勢があった。

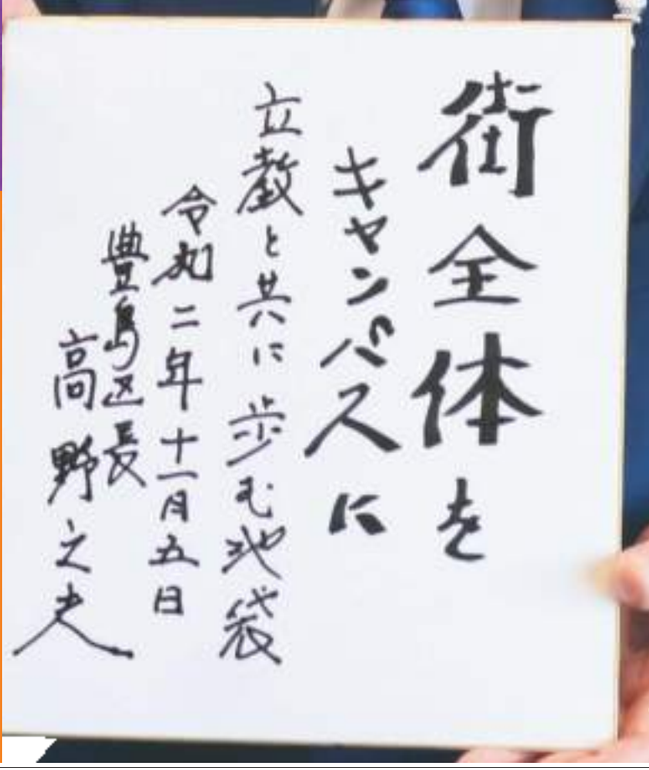
就任当初、区は借金を抱えていた。財政を見直す一方で「厳しいときこそ夢と希望を持たないといけない」。文化で日本をけん引する街を目指し、「国際アート・カルチャー都市構想実現戦略」を策定した。「文化には人の心を豊かにし、夢を描かせる力があると私は信じています」。

2014年、「消滅可能性都市・豊島区」の言葉が区長の耳に入った。少子化や都市部への人口流入により存続が危ぶまれる自治体を意味し、23区で唯一「消滅」の可能性が指摘された。「ショックだけど指摘を受けたからこそ大胆な政策ができると思う」。

即座に子育て世代の女性との会議を企画。意見を区政に反映し、女性と子どもが暮らしやすい街を目指した。取り組みは待機児童ゼロや、住みたい街に池袋の名が挙がるなど明確な結果として表れた。

コロナ禍でも区長は前向きだ。「ピンチを新たなチャンスに変え、豊島区で未来を創り上げていきたいです」。

高野之夫（たかのゆきお）
立大経済学部ＯＢ
（59年度卒）
血液型　ＡＢ型
健康法　歩くこと
好きな食べ物　豆腐（特に絹豆腐）
好きな鍋　豆腐鍋



豊島区役所にて、朗らかな笑顔を見せ取材に応じる高野区長。色紙には深い母校愛と街への思いを込めた

レイアウト　川崎翔海・山崎吏恩

2020／2019／2018／2017／2016

最近できたでちゅ！

グローバルリング 2019年11月
IKEBUS 2019年11月
としまキッズPARK 2020年9月
南池袋公園 2016年4月（リニューアル）

区長が作ったもの

Mr.Miss体育会vol.132

優しい笑顔が印象的な山岳部の主将・天内雄靖（あまない・ゆうせい＝法3）さん。富士山級のほほ笑みで部員を見守ります。その姿はまるで「家族を支える母」のようです。

中高ではバドミントン部で主将を務めました。その経験が生きたのか視野が広く、山中でも常に冷静です。山頂を目前にしても危機が迫れば部員の命を最優先。頼れる母は絶景を諦め下山を選択できる的確な判断力を持っています。

そんなお母さんも部を離れると違う一面が顔を出します。見切り発車で怖いもの知らず。特に自転車で旅に出掛けるときは「計画性」なんて関係なし！山で鍛えた体力を武器に、都内から日光まで自転車を走らせたこともあるんだとか。走り出したら止まらない無鉄砲さは、部での慎重な性格とは対照的ですね。

今後の目標は、部員と共にヒマラヤ登頂に挑戦すること。大胆不敵な山岳部の母は、世界一の山にも全く怯みません。広い視野はすでに山頂を捉えているはず。これからも数々の「雄」峰に挑戦する彼にご期待！

体育会に一言

立大卒のスーパースターといえば誰もが同じ顔を思い浮かべるだろう。「ミスター」こと長嶋茂雄氏（57年度卒）。区長は同時期に在籍し、その活躍を目の当たりにしていた。当時の熱気を知る区長が今の体育会に望むことは、黄金時代の再来と街との共鳴。野球部の優勝パレードを例に、「体育会と共に街全体を盛り上げてほしい」と語る。「若いエネルギーで秀でた力を発揮し、みんなから注目されるようになってほしい」。立大旋風がまちづくりの重要ピースとなる。

懐かしそうに話す区長

時代を先導する街へ

「池袋は変わったでしょ」。区長のまちづくりへの自信がうかがえる一言だ。豊島区は今年7月、内閣府よりSDGsへの取り組みが長けている「SDGs未来都市」、先導的な取り組みをしている「自治体SDGsモデル事業」に選定された。都内の市区町村のダブル選定は初の快挙。SDGsは誰一人取り残さない、持続可能なより良い社会の実現を掲げている。「誰もが主役になれる」街を目指す豊島区にとっても重要課題だ。今後も積極的な変革を進めていく。

SDGsのバッジ

次号は4月1日発行予定

待ってるでちゅ！
St.Paul's Sports Press リスポ
◆公式SNS◆
Twitter @Rikkyo_sports
Instagram @rikkyo_sports
HP https://www.rikkyo-sports.com
―新入部員募集中―
51部55団体で輝く戦士たちを共に追いかけませんか？
最後の学生生活、「伝える」ことに懸けてみませんか？